

イソチアニル剤 ルーチンシード FS	取扱メーカー： クミカ、バイエル 原体メーカー： 住友化学・バイエル
成分： イソチアニル〔チアジアゾールカルボキサミド系〕…41.7%	性状： 赤色水溶性粘稠懸濁液体 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】

- ルーチン FS より成分含有量を増やして、少ない液量で処理可能。
- 種子処理により省力的にいちも病防除が可能。
- 全ての種もみに直接処理するので効果にムラが出にくい。
- 農閑期の薬剤処理により作業の平準化が可能。
- 浸透性・移行性に優れ、長い残効性がある。
- 植物病害抵抗性誘導型殺菌剤なので、既存の薬剤耐性イネいもち病菌に対して有効で耐性菌発達のリスクが小さい。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】

- 薬剤を処理する際には、種子コーティング機等を使用して均一に処理する。
- 「は種前（浸種前）処理」後では、浸種時の有効成分の流亡を軽減するために専用の種子被覆剤を加用する。
- 「は種前（浸種前）処理」後は、一晚以上風乾し、十分に種子を乾燥させる。

- 薬剤を処理した鉄コーティング種子の酸化・乾燥は、必ず日陰で行う。
- 薬剤処理済の鉄コーティング種子は低温管理された種子庫で保管し、6カ月以内に使用する。

【薬効・薬害等の注意】

- 誤って過剰に使用すると根の生育抑制が生じる場合があるので使用量を厳守する。
- 稲（育苗箱）の浸種後に使用する際は、軽く風乾させた鳩胸状態の催芽もみに均一に付着させる。
- いぐさ栽培予定水田では本剤を処理した種もみをは種しない。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しない。
- 処理した種もみは食料や飼料に用いない。

【安全対策上の注意】

- 使用の際は農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用する。
- 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。



【適用と使用方法】

作物名	適用病害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病	乾燥種もみ 1kg 当り 原液 6～12 ml (原液 71 ml / 10a まで)	は種前 (浸種前) は種前 (浸種後)	1 回	塗沫処理（種子被覆剤を加用） コーティング中又はコーティング後の種もみに塗沫処理	3 回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)